

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月8日

【評価実施概要】

| | |
|-------|------------------------------------------------|
| 事業所番号 | 2772500761 |
| 法人名 | 利楽心株式会社 |
| 事業所名 | グループホーム自由時館 |
| 所在地 | 〒563-0024 大阪府池田市鉢塚2-5-29 (電 話) 072-760-4560 |

| | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年6月9日 | 評価確定日 | 平成20年7月15日 |

【情報提供票より】(平成 20 年 5 月 16 日事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|--------------------|-----------------------|-------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 16 年 2 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 8 人 |
| 職員数 | 12 人 | 常勤 6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 | 9.7 人 |

(2)建物概要

| | | | |
|------|-------|-----|------|
| 建物構造 | 木造り | | |
| | 2階建ての | 2階～ | 2階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|---------------|----------------|---------|
| 家賃(平均月額) | 70,000 円 | その他の経費(月額) | 実費 円 |
| 敷金 | 有(300,000 円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(400,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 1,500 円 |

(4)利用者の概要(5 月 16 日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 8 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 6 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 80 歳 | 最低 | 70 歳 | 最高 | 90 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|--------------------|
| 協力医療機関名 | 小川内科、いずみ歯科、太田クリニック |
|---------|--------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

池田市の閑静な住宅街の中にあり、隣には幼稚園の菜園がある当該ホームは、一階にはデイサービスが併設されていますが、水色の二階建ての民家を思わせるような外観です。また、ホームの中は自宅に近い雰囲気を出す為、木を多く用い温かみを出す工夫が見られます。事業主はボランティアからこのホームを立ち上げたほど、ホーム運営には熱心で、毎月のカンファレンスにも顔を出しています。その思いは全職員にも行き渡っており、「利用者の幸せは職員の幸せ」と職員はいつも利用者が笑顔でいられる支援を心がけています。また設立当初から年に一度、利用者と職員が力を合わせ一緒に温泉旅行に出かけています。利用者のためにカルチャーセンターへの送迎や通院介助を行うなど多機能な支援をしています。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | ミーティング等で話し合い、前回評価の課題であった一人になれるスペース作りとしては、ソファの位置を変え小さなテーブルを置くことで新たなスペースが出来、落ち着ける空間ができました。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 今回の自己評価票は管理者が全職員と項目の確認をしながら意見を聞いてまとめました。また、取り組んでいきたい内容は、職員間で話し合いを持ち取り組んでいます。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 2か月に一度、開催されており、初回には市担当者から運営推進会議の重要性や意義について説明頂きました。会議ではホームの行事報告や現在の課題について議論されたり、家族からの意見、要望について話し合われるなど盛んに意見交換がなされています。また防災対策についても話し合わせ、自治会長を通じて近隣の消防団に協力を依頼することが決まり、地域に向けた情報発信の場となっています。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 管理者が利用者の様子や健康状態、金銭管理等を手紙に書き報告しています。その際、利用者が家族に宛てた手紙を同封し返事が来るなど、利用者に応じた報告がなされています。また個々の来所時に意見、要望等を聞き、出された意見は職員会議等で話し合い解決しています。意見箱の設置や重要事項説明書に外部機関を掲載して家族からの意見把握に努めています。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 自治会に加入し、菖蒲祭り、盆踊り等、地域の行事に参加しています。老人会のお茶会にも毎月参加し、利用者の顔馴染みの人に声をかけてもらったり、交流する機会となっています。また近隣の人から野菜をいただいたり、訪ねてくれる人もいます。隣に幼稚園の菜園があり、かわいい園児たちが折に触れ訪れ、利用者を喜ばせてくれています。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と:グループホーム自由時館 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 玄関入口に企業理念と社是を掲示しています。事業主が掲げる「利用者の幸せは職員の幸せ」をテーマに日々質の向上に努めています。 | ○ | 地域の中でいかに利用者本位な暮らしを支えていけるかを全職員で考え、全員の意見を合わせた事業所独自の理念をわかりやすい形で作られ、掲示されることを期待します。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ミーティングや日々の会話の中で理念について話し合われており、利用者一人ひとりにとっての幸せが何なのかを考え、利用者がいつも笑ってくれるような支援をしています。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に加入し、菖蒲祭り、盆踊り等、地域の行事に参加しています。老人会のお茶会にも毎月参加し、利用者の顔馴染みの人に声をかけてもらったり、交流する機会となっています。また近隣の人から野菜をいただいたり、訪ねてくれる人もいます。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回評価の課題であった一人になれるスペース作りとしては、ソファの位置を変え小さなテーブルを置くことで新たなスペースが出来、落ち着ける空間ができました。今回の自己評価票は管理者が全職員と項目の確認をしながら意見を聞いてまとめました。また、取り組んでいきたい内容は、職員間で話し合いを持ち取り組んでいます。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に一度、家族、自治会長、老人会代表、婦人会代表、包括支援センター職員、職員等が集まり開催されています。会議ではホームの行事報告や現在の課題であるターミナルケアや転倒防止策について議論されたり、家族から災害時の備蓄の必要性についての意見が出るなど、サービス向上に向けて活発な意見交換の場となっています。 | | |

グループホーム自由時館

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 折に触れ市担当者との面会し、いろいろ相談に乗ってもらっており、何かあれば市担当者がホームを訪ねてくれたりしています。また初回の運営推進会議においては、「なぜ運営推進会議が必要なのか」を他の参加者に説明してもらうなどして連携を図っています。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 毎月の請求書を送る際に、管理者が利用者の様子や健康状態を手紙に書き報告しています。その際、利用者が家族に宛てた手紙を同封し返事が来るなど、利用者に応じた報告がなされています。また来所時にも報告しています。金銭管理は立替払いで明細書と領収書を同封し報告しています。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 管理者が家族会の発足を呼びかけていますが、開催には至っておらず、個々の来所時に意見、要望等を聞いて把握しています。出された意見は職員会議等で話し合い解決しています。また玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に外部機関を掲載して家族からの意見把握に努めています。 | ○ | 家族が集まり意見を出せる機会が少ないので、家族の真の思いを知る為にも、ホームに対する希望や利用者に対してどうしてもらいたいかなどのアンケートを実施してはどうか。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 年に一度、法人が全職員にアンケートを実施して、悩みや意見を聞いており、管理者もその都度相談に乗っています。また、新しい職員にホームのことを教えることを役割と思っている利用者があり、教えてもらいながら、新しい馴染みの関係を築いていっています。異動で離れた職員も時々顔を見せてくれたりして利用者へのダメージを防いでいます。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員は経験や能力に応じて様々な研修に参加しています。外部研修で得た知識は持ち帰りホーム内で伝達研修を行っています。また管理者とリーダーが他の職員に実践指導しながら働きながら学べる機会とし、OJTを進めています。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 2か月に一度、池田市に8か所ある同業者の管理者が集まり、お互いのホーム見学をしたり、悩みや意見を言い合う等の勉強会をしています。今後はいくつかのホームで講師を呼び研修会を開催したり、利用者も交えてお互いのホームを行き来する等の企画を考えています。 | | |

グループホーム自由時館

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用者に安心して入居してもらう為に、体験入居や利用者本人の見学を勧めています。また利用者や家族ともよく話し合い、一人ひとりに合ったホームでの暮らしを提供できるよう努めています。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者は新しい職員にいろいろな事を教えてくれたり、男性職員が台所に立っていると、「男がそんなことをするものではない」と替わってくれるなど、共に暮らす中で利用者と職員が支えあって生活しています。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の暮らしの中でのなるべく利用者に希望を聞き、それに添った支援が出来るよう心がけています。思いを口に出せない利用者に対しては、家族に聞くなどして思いの把握をしています。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 月に一度、全職員、事業主が参加してすべての利用者についてカンファレンスを開いています。利用者、家族の希望に添える支援について話し合った上で、アセスメントを基に担当者会議で介護計画を作成しており、職員の意見が反映された計画になっています。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3か月に一度介護計画の見直しを行っています。状態の変化がある利用者に対してはその都度担当者会議を開き、介護計画を見直し、変更しています。またアセスメントも見直しの都度取り直す等、利用者の現状に即したケアを心がけています。 | | |

グループホーム自由時館

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 併設のデイサービスの送迎車が空いている時にドライブへ出かけたり、利用者の通院介助、コンビニに週刊誌を買いに行く同行、外食の支援等、利用者の希望により臨機応変に対応しています。また利用者のシャンソンや源治物語の解釈等カルチャーセンター通いの際に送迎の支援もしています。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者、家族に希望を聞き、かかりつけ医を決めています。主治医、歯科医による定期的な訪問診療や歯科衛生士による口腔ケアのチェックを受けており、以前のかかりつけ医の利用者については、通院介助しています。主治医の協力により24時間対応可能で緊急時体制も整っており、利用者や家族が安心できる体制となっています。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 今までにターミナルの経験はありませんが、運営推進会議でも議題に挙げ、話し合いをしています。管理者を始めとして職員はホームで看取ることばかりに虎視することなく、段階に応じたその人にとって一番いい場所を家族に相談しながら探すことが重要だと認識して支援しています。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | ミーティング等でいつも話し合い丁寧な言葉使いを心がけ、職員同士で注意し合っています。「家族みたいな、でもそうでない関係」を大切にしています。個人のファイルは鍵のかかる書類棚に保管しています。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床や消灯はできる限り利用者の希望を聞きながら、その人のペースに合わせたケアを心がけています。時には職員の人数の関係で利用者を待たせることもありますが、待たせる理由やいつ対応できるかなど、常に声掛けすることで対処しています。 | | |

グループホーム自由時館

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎日のメニューは大体決まっていますが、利用者の希望でその日の朝に変更することもあり、毎日買い物班と職員が往復40分ほどかけて、スーパーに買い物に出かけます。下ごしらえや後片付けなども手伝ってもらっており、出来上がった食事を利用者と職員と一緒に楽しく食べながら、サポートしています。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 昼食後から夕方にかけて入浴を実施しており、利用者の希望で毎日入浴する方や、午前中に入られる方もいます。どの利用者についても二日に一度の入浴ができるよう支援しています。また入浴拒否がある利用者には職員が代わる代わる声掛けしたり、家族に協力してもらったりしています。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 買い物班や片付け班等、希望する役割があります。裏庭のスペースに季節の野菜を植え、職員と利用者が世話をしている方や、老人会のお茶会に参加したり、カルチャーセンターに通う利用者もおり、個々に合った楽しみごとのある生活の支援を心がけています。また年に一度の温泉旅行は恒例になっており、利用者も職員も楽しみにしています。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 管理者、職員は外出の必要性、大切さを認識しており、毎日の買い物や近隣の公園、神社への散歩、老人会のお茶会、日曜日のドライブ等の支援をおこなっています。また車いすの方も職員が介助して外出しており、すべての利用者が外出を楽しめるよう支援しています。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 家族からの希望で一階入り口に鍵をかけています。他の利用者の家族にも理由を説明し、同意を得ています。利用者が出たそうにしている時は職員がついて近くを散歩するように心がけています。利用者の状態を見て鍵の解放を考えていく予定です。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | ホームでは自主避難訓練と通報・消火器の使用方法についての訓練を年2回実施しており、避難訓練は昼夜を問わずいろいろな場合を想定して行われています。また防災対策として運営推進会議でも話し合わせ、自治会長を通して近隣の消防団に協力を要請しています。 | | |

グループホーム自由時館

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量は毎日チェックリストや生活記録表で管理しています。医師の指導により体重測定を月2回実施し、個々のカロリーを考え食事量で調節していますが、専門家による定期的なカロリー計算や栄養バランスの調整はなされていません。 | ○ | 栄養バランスやカロリーのチェックを定期的に法人の管理栄養士等にして頂く機会を設けられてはいかがでしょうか。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 木のぬくもりを利用者に感じてもらえるよう木を基調にした内装とし、手すりも木を使用しています。ソファの位置を変えることで生まれた空間でそれぞれの利用者がくつろぐスペースを確保しています。また、トップライトを2か所設置することで室内の明るさが増し、光を取り込む工夫が見られます。訪問時、外の景色等で季節を感じられるためか、ホーム内で季節感の採り入れが充分ではありません。 | ○ | 家庭的な雰囲気を保ちながら、ホームの中でも四季を感じることができるような工夫や取組みを期待します。 |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 希望によりカーペットを敷きそこに座って過ごす利用者や畳を敷く利用者もいます。また利用者や家族に相談して家具や、テレビ、仏壇、ちゃぶ台、ぬいぐるみや家族の写真等馴染みの物を置き、散歩中に摘んだ花を生けている利用者もあり、居心地良く暮らしてもらえる支援をしています。 | | |